

〈資料〉

2015(平成27)年度鳥取大学教員免許状更新講習実施状況

蔵田修一・安藤晶子・柿内真紀

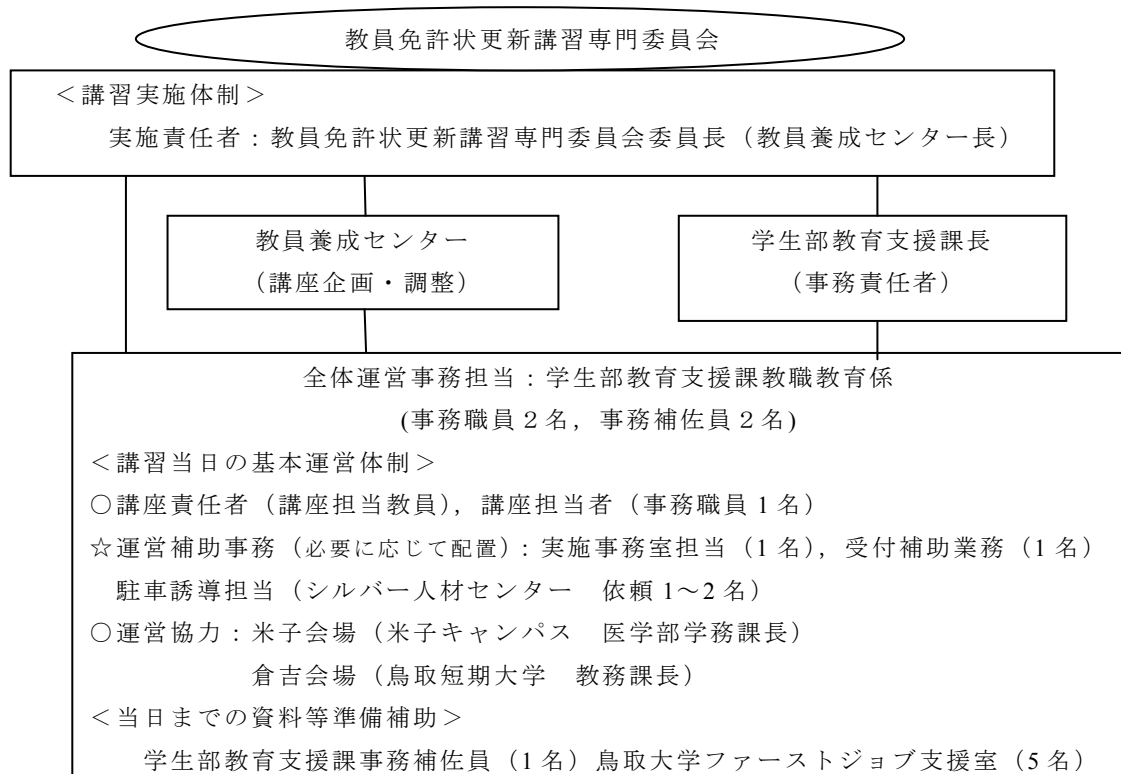
はじめに

2013年2月の大学教育支援機構の組織改組により、教育センター・教職教育部門及び附属学校連携部門を母体に、教員養成部門と附属学校連携部門の2部門を擁する教員養成センターが設置された。教員養成部門では、旧教育センター・教職教育部門から引き続き、教員免許状更新講習の講座企画およびコーディネイトを担当している。担当は、組織改組前(2009年度までは生涯教育総合センター・教職教育部門)の2008年度から8年目となった。

本稿では、2015年度の更新講習の運営体制と受講状況等を取りまとめておく。

1. 運営・実施体制

本学では講習開設にあたり、予備講習実施(2008年度)から全学レベルの教員免許更新講習専門委員会を設置し、運営事務は学生部教育支援課教職教育係が担当している。実施体制としては、本学の教員養成に関する機能強化を目的として設置された教員養成センターにおいて、センター長を中心として講座の企画・調整を行っている。



2. 受講状況

今年度は、鳥取市（鳥取キャンパス）、米子市（米子キャンパス）、倉吉市（鳥取短期大学）、船上山少年自然の家の県内4会場で、必修4講習、選択64講習（昨年度比14講習増）を開設した。全体の受講状況は表1のとおりであった。本学の特色として、地方国立大学であるが、

昨年度と同じく、隣接の兵庫県北部や島根県、岡山県など県外からの受講者が342人と、受講者数全体の14.8%を占めている点があげられる。

なお、必修・選択講習別の受講状況は表2及び表3のとおりである。

表1. 更新講習受講者全体状況(単位:人)

必修・選択合計 (延人数)	受講定員	受講者数	左の内訳	
			県内	県外
			3,381	2,299

表2. 受講状況(必修講習)(単位:人)

会場	講座の名称	講座責任者	定員	申込者数	左の内訳	
					県内	県外
米子市(7月)	教育の最新事情①	大谷直史	130	127	120	7
鳥取市(8月)	教育の最新事情②	大谷直史	180	175	148	27
鳥取市(9月)	教育の最新事情③	大谷直史	180	163	131	32
倉吉市(11月)	教育の最新事情④	大谷直史	180	119	104	15
		合計	670	584	503	81

表3. 受講状況(選択講習)(単位:人)

会場	講座の名称	講座責任者	定員	申込者数	左の内訳	
					県内	県外
鳥取市	【授業実践演習(中学校)】国語	小笠原 拓	15	6	3	3
	【授業実践演習(中学校)】健康教育	近藤 卓	15	9	8	1
	【授業実践演習(中学校)】理科	高橋ちぐさ	15	1	1	0
	【授業実践演習(中学校)】社会	高橋健司	15	1	0	1
	【授業実践演習(中学校)】音楽	鈴木慎一郎	15	12	10	2
	【授業実践演習(中学校)】英語	足立和美	15	8	7	1
米子市	医学・生命科学・脳科学から学校教育の可能性を探る	岡田 太	40	39	37	2
米子市	地域と学校における健康と体力 -楽しく走る・歩く-(米子)	関 耕二	40	39	39	0
鳥取市	異文化コミュニケーション	筏津成一	30	27	22	5
鳥取市	森林と人間(鳥取)	佐野淳之	30	30	24	6
鳥取市	児童生徒への効果的支援 -学校で役立つ認知行動療法-	石本雄真	40	40	32	8
鳥取市	新しい家庭科教育の理論と実践	福田恵子	25	21	17	4
鳥取市	考古学と関連諸科学による歴史復元	中原 計	40	16	12	4
鳥取市	農山村の地域づくり	筒井一伸	20	10	8	2
米子市	「日本人」になること・であること・でなくなること- 「伝統と文化」,「我が国と郷土」について考える	一盛 真	40	37	33	4
鳥取市	日本経済の現状と今後の課題	藤田安一	50	7	6	1
鳥取市	新しいものづくり・技術教育の理論と実践	土井康作	20	17	14	3
鳥取市	材料の世界-その裏に潜むなぜ?	小畑良洋	20	6	4	2
鳥取市	地域学入門	柳原邦光	100	27	23	4
鳥取市	生命倫理と法	丸 祐一	40	36	31	5
米子市	沖縄の現実から日本と「日本人」を考える-「伝 統と文化」,「我が国と郷土」について-	一盛 真	40	33	30	3
鳥取市	社会学入門-＜弱さ＞の＜強さ＞-	仲野 誠	40	40	36	4
鳥取市	法律学入門-家族の法律-	佐藤 匡	40	26	20	6
鳥取市	憲法学入門-未来の主権者-	佐藤 匡	40	13	7	6
鳥取市	観察・実験を通して学ぶ原理と技術 (中学校理科「生命分野」)	高橋ちぐさ	30	11	10	1
鳥取市	西欧近代とは何か	柳原邦光	50	9	6	3
鳥取市	歌う楽しみ, コーラスする喜び	西岡千秋	40	37	32	5
倉吉市	手紙を書く-鑑賞と実際-	住川英明	30	30	28	2
鳥取市	新しい音楽教育の理論と実践	鈴木慎一郎	20	20	14	6
鳥取市	楽しい造形表現の実践 ~教材づくりと活動内容の設定~	武田信吾	30	28	20	8

米子市	児童生徒の心身の発達と諸問題、その支援・ カウンセリング	菊池義人	50	50	47	3
鳥取市	基礎から分かる昆虫学	中 秀司	100	98	85	13
鳥取市	地域のなかの「歴史」を見つめる ー近世・近代の顕彰と褒賞ー	岸本 覚	30	12	8	4
鳥取市	地域経済の現状と今後の展望	多田憲一郎	50	12	10	2
米子市	教員が知っておきたい生徒の健康：とっさの時 の対応と心肺蘇生法の新しい教育法の紹介	本間正人	50	50	42	8
米子市	算数の問題解決学習と教材研究	溝口達也	40	14	13	1
船上山少年 自然の家	自然体験の理論と実践	大谷直史	20	20	18	2
鳥取市	算数・新しい算数の授業づくり (協同的問題解決の学習)	矢部敏昭	30	28	17	11
鳥取市	新しい国語科の教材づくり(中学・高校編)	小笠原 拓	40	14	11	3
米子市	数学・新しい数学の授業づくり (協同的問題解決の学習)	矢部敏昭	30	9	9	0
鳥取市	数学の問題解決学習と教材研究	溝口達也	40	16	14	2
米子市	新しい国語科の授業づくり(小学校編)	小笠原 拓	40	32	31	1
鳥取市	ジェンダーと法	丸 祐一	40	38	35	3
鳥取市	私たちの身の周りの放射線	山野好章	30	12	10	2
鳥取市	生活の中の微生物・酵素(鳥取)	森 信寛	100	45	33	12
鳥取市	国際理解教育の実践と、外国にルーツを持つ 子どもへの支援	御館久里恵	30	30	28	2
倉吉市	子どもの成長発達と音楽表現	羽根田真弓	40	39	39	0
倉吉市	生活の中の微生物・酵素(倉吉)	森 信寛	50	46	33	13
鳥取市	ピア・ラーニング(協働学習)による授業デ ザインー仲間同士の話し合いによる学習の理 論と実践方法ー	池田玲子	30	28	24	4
倉吉市	特別支援教育と生涯発達支援 ～乳幼児期と青年期に注目して～①	國本真吾	40	39	38	1
倉吉市	特別支援教育と生涯発達支援 ～乳幼児期と青年期に注目して～②	國本真吾	40	40	40	0
米子市	からだきづき・からだほぐし	佐分利育代	40	40	38	2
鳥取市	生物多様性を中心に郷土の自然を考えるー 博物館を活用してー	永松 大	20	6	6	0
鳥取市	鳥取砂丘の教育活用をめざして ー地理・地学編ー	小玉芳敬	24	23	20	3
鳥取市	粘土の造形	石谷孝二	15	15	12	3
倉吉市	小学校外国語活動と言語技術教育	川口康子	40	15	12	3
倉吉市	森林と人間(倉吉)	佐野淳之	30	28	27	1
鳥取市	ためになる糖鎖科学	田村純一	30	27	16	11
倉吉市	体験学習のススメ～挑戦、協力、コミュニケ ーション力を育む～	近藤 剛	32	32	32	0
米子市	新しい英語教育の理論と実践	足立和美	30	20	12	8
鳥取市	児童期における体育・スポーツ指導	上野耕平	30	14	11	3
鳥取市	【授業実践演習(小学校)】国語	小笠原 拓	15	5	3	2
	【授業実践演習(小学校)】算数	矢部敏昭	15	5	3	2
	【授業実践演習(小学校)】理科	高橋ちぐさ	15	3	2	1
	【授業実践演習(小学校)】社会	高橋健司	15	3	3	0
	【授業実践演習(小学校)】音楽	鈴木慎一郎	15	5	5	0
	【授業実践演習(小学校)】生活	高橋千枝	15	6	3	3
	【授業実践演習(小学校)】外国語	足立和美	15	4	3	1
	【授業実践演習(小学校)】図画工作	武田信吾	15	8	6	2
鳥取市	植物とカビ・キノコを通して生物の不思議を 学ぶ	児玉基一郎	40	23	15	8
鳥取市	【幼児教育実践演習】子どもの遊びと学び	塩野谷 齊	10	9	9	0
鳥取市	英語ライティング指導の理論と実践	滝波稚子	30	14	11	3
米子市	森林と人間(米子)	佐野淳之	30	27	21	6
鳥取市	地域産業の現状と課題について	馬場 芳	30	15	13	2
鳥取市	地域と学校における健康と体力 -楽しく走る・歩く-(鳥取)	関 耕二	40	39	37	2
鳥取市	「宇宙教育」への招待	三浦政司	20	19	14	5
		合計	2,711	1,715	1,454	261

3. 今後の講習運営に向けて

今年度の講習運営を振り返り、講習運営に関して効果のあった点、困難だった点、及び今後の検討課題を簡単にとりまとめておく。

(1) 運営上の効果があった点

- ・必修講習は、例年と同じく東部地区（鳥取市）・西部地区（米子市）・中部地区（倉吉市，鳥取短期大学）で開設し、地理的バランスがとれた。また、受講見込み者数の関係から、東部地区では例年どおり2講習開催し、需要に応えることができた。
- ・選択講習は、64講習開設した。受講者数の少ない講習もあったが、おおむね受講生からの評判も良く、需要に応えることができた。
- ・今年度は学生部全体で運営にあたった（特に講習が集中する7月～8月）。そのため、担当係である教職教育係において事務職員が1減になったものの、特に支障をきたすことなく、事務運営を行うことができた。
- ・必修講習については、引き続き、ざぶとん、ひざかけ（選択講習については、受講生に持参することを促した）を準備する等、教室の座席等の環境改善に一定の効果があった。
- ・倉吉会場として利用した鳥取短期大学では、大講義室が改築され、会場の環境が向上し、受講者におおむね好評であった。

(2) 運営上、困難だった点

- ・台風が接近し、講習を開催すべきかどうか判断が難しい点があった。
- ・教室外で行う講習の期日設定（季節や天候との兼ね合い）が難しかった。
- ・暑い時期、寒い時期の講習で空調の準備等がうまくいかない講習があった。
- ・オープンキャンパス、大学祭等のイベントと開催時期が重なったため、運営が難しいことがあった。
- ・講師の都合で、実施日近くに予定日を変更したことがあり、少し不満を持った受講生がいた。

(3) 今後検討が必要な点

- ・講習中の緊急時対応（特に休日に急病人が出た場合）の速やかな対応が必要である。
- ・鳥取キャンパスでの必修講習（平日開催分）については、駐車スペースの関係から、例年受講生は学内に車を乗り入れて駐車しているが、駐車場所等で軽微なトラブルがあった。受講生に対して、できるだけ公共交通機関を利用して来学願うことを周知するとともに、更新講習開催についてメール等で学内に周知する等、対策を講じたい。
- ・米子キャンパス（医学部）での講習の際は、駐車スペース確保の検討や、講習を行う棟の周知を徹底する必要がある。

藏田修一,安藤晶子（学生部教育支援課教職教育係 係長,事務補佐員）

柿内真紀（大学教育支援機構・教育養成センター）